



Atsuko Kudo

Mail Magazine 237

2018.12.13 ●コンサート報告 ●映画「パウロ」

ハレルヤ！救いの主をほめたたえます。

あっという間に12月に入り、町はクリスマスのデコレーションとイルミネーションに包まれています。

皆さま、お元気でいらっしゃいますか？

●コンサート報告

いつもコンサートのためにお祈りくださり、心から感謝しています。11月は18日（日）の所沢福音キリスト教会、23日（金）の第81回コーヒーアワー、12月には、1日（土）の阪神クリスマス・フェスティバル・コンサート（アルカイクホール）、12月9日（日）のクライストコミュニティ宝塚チャペルでのコンサートを、主の守りと導きの中で、無事に終えることができました。

（コーヒーアワー）

特に、11月23日のコーヒーアワーは、会場のCAJ（東京都東久留米市にあるクリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン）が、マドリッドで私を信仰に導いてくださったアメリカ人宣教師夫人、クラウディアの出身校であること、また、38年間続けられてきたコーヒーアワーの最終回ということで、感慨深い思いで臨ませていただきました。最終回ということもあり、会場は一杯になりました。米永志奈乃さんの伴奏に支えていただき、聖霊の導きの中で大胆に福音を語り、賛美させていただくことが出来たと思います。



第二次世界大戦後、アメリカのカンザスシティで「聖書コーヒーアワー」という集会が誕生しました。当時、東久留米市、清瀬市、所沢市で活動していた宣教師婦人たちは、日本の人たちにキリスト教を知ってもらうためにこの集会を日本でも広げようと考え、1980年、CAJにおいて「コーヒーアワー」が始まりました。コンサート前にコーヒー、紅茶、スイーツを皆さんにふるまい、外では、キリスト教の本やグッズのコーナーが設けられます。38年間、毎年2回欠かさず続けられてきたコーヒーアワーは、11月23日の81回目をもって幕を閉じました。この働きを通して、これまで多くの人々が教会につながり、信仰に導かれて行ったことを感謝します。

(人身事故)

関東滞在時、西武池袋線と京浜東北線で3度も人身事故に遭遇しました。電車が動くまで長い間ホームで立ったまま待たされ、やっと電車が動いた時には、身動き一つできない満員電車の中でさらに一時間立ったまま。目的地に到着した時は、2日分のエネルギーを使い果たしたかのようにクタクタでした。



頻りに起こる人身事故、決して当たり前になってはいけない事が、東京では当たり前になっています。不慮の事故もありますが、多くは投身自殺。生きる希望を失った人、死以外に道を見いだせなくなった人、精神状態が不安定になりフラフラと飛び込んでしまう人・・・。

日本の中心である東京。「中心」とは、王座があるところ。地の中心にあるのは、敵の王座でしょう。そこから何とか一人でも救い出そうと、天にある王座から送られた神の軍勢も力を尽くして戦っています。神の国がもたらされるために、この地に置かれ、この地の支配者の圧制から贖われた私たち信仰者が、どれほど目をさまして祈り、キリストにある救いを宣べ伝え、この戦いに参戦して行かなければならぬかを思わされています。

●映画「パウロ 愛と赦しの物語」

前回のメルマガでお分かちさせていただいたように、今年の秋のコンサートでは、「永遠」をお伝えしてきました。パウロが語った「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」(II コリント 4:17-18) から、「永遠の栄光」は、患難を通してもたらされるものであることが分かります。パウロが語った「軽い患難」は、私たちの患難から比べれば、信じられないような患難 — ユダヤ人から39度のむちを受けたことが5度、むちで打たれたことが3度、石で打たれたことが1度、難船したことが3度、一昼夜、海上を漂ったこともあり、幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難、労し苦しみ、たびたび寝られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこと (II コリント 11:24-27)

— でした。そのパウロが、今の時の「軽い」患難と言えたのは、永遠の栄光が、そのような患難さえも比べものにならない重いものであることを知っていたからなのだ、といったことをお分かちしてきました。

3週間前に見に行った映画のパウロの患難は、彼がローマで逮捕され殉教するまでの一部だけでしたが、映像から迫ってくるものは実にリアルで壮絶でした。最後に、パウロの殉教後、美しい園で他の殉教者たちと出会うシーンがありますが、この映画の到着地も「永遠」でありました。

また、タイトルの「愛と赦しの物語」にあるように、私たちがこの永遠の栄光に入れるには、どんなにひどい仕打ちをする敵さえも赦し、愛し、その人の祝福を祈ることが必須であることを再認識させられました。映画を通して、悔い改めさせられることがいくつもありました。そして、どこかで誰かを赦していない部分、憤慨している思いを、神の火が焼き尽くしてくださいますようにと祈りました。いつイエス様が来られても恥じないように、「永遠」をしっかりと見据え、愛と赦しに生きていかなければと思っています。



●12月の2つのコンサートのためにお祈りください

どうぞ、主が霊肉・声を守ってくださり、今年最後の2つのクリスマス・コンサートを通して、高らかに主を賛美し、主の霊が私の舌にことばを与えてくださり、明確に福音をお伝えすることができますようお祈りください。ひとりでも多くの方が信仰に導かれ、信仰者には、霊の励まし、力を共有できる素晴らしい時としてくださいますように。

12月15日(土) 高槻福音自由教会 クリスマス・チャーチ コンサート 14:00~

<https://www.dropbox.com/s/993x5g0pvi1bz5a/2018.12.15%E9%AB%98%E6%A7%BB%E7%A6%8F%E9%9F%B3%E8%87%AA%E7%94%B1%E6%95%99%E4%BC%9A%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7.jpg?dl=0>

12月23日(日) 活けるキリスト大阪一麦教会 クリスマス・コンサート 13:30~

<https://www.dropbox.com/s/ncm55xj3q2f64g/2018.12.23%E5%A4%A7%E9%98%AA%E4%B8%80%E9%BA%A6%E6%95%99%E4%BC%9A%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%88%E3%80%81%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%B7.pdf?dl=0>

※ピアニスト、野田常喜(つねよし)さんのお名前の漢字が違って記載されています。お詫び申し上げます。

私たちの主イエス・キリストの恵みが、皆さまと共にありますように！

Atsuko Kudo



11月18日(日) 所沢福音キリスト教会 チャペルコンサート

会衆賛美「よき力に守られて」。皆さん大きな声で歌っていただきました。主が教会を祝し、多くの人々を集め入れてくださいますように！



11月23日(金) 第81回 ーヒーアワー

こちら、最後の会衆賛美「よき力に守られて」が圧巻でした。

耳のご不自由な方々も来ていただきました。下は、最初から最後まで一人で手話通訳を担ってくださった関根秀子さん。



これまでコーヒーアワーの働きのために労して来られたスタッフの皆さま、本当にお疲れ様でした！



12月1日 第43回阪神クリスマスフェスティバル・クリスマスコンサート

43年前から阪神地区の教会が力を合わせて続けられてきたフェスティバル。素晴らしいピアノ演奏・伴奏をしてくださった野田常喜さん、3名の手話通訳の皆さんも大活躍でした。パワーポイント、音響、照明、舞台の担当の皆さんも、とても良くしてくださいました。主に心を触れられた方もおられたようです。阪神地区宣教の働きのために祈っています！



12月9日クライストコミュニティ宝塚チャペル クリスマス・コンサート

昨年に続き、今年で2度目の奉仕。昨年、この新しい会堂が建てられました。主が教会を祝し、地域の伝道のために大いに用いてくださいますように！